

進藤和彦先生の瑞宝中綬章叙勲を祝って

長崎医療センター 泌尿器科部長 松屋福蔵

進藤和彦先生、叙勲おめでとうございます。お祝いの言葉をとの依頼を受け、どのような表現がいいのか迷いましたが、泌尿器科の一後輩として先生を紹介することします。その中から先生の人となりを感じ取っていただけたらと思います。

小生が長崎大学泌尿器科に入局したのは昭和 53 年、進藤先生が米国留学から帰国された年でした。主に腎臓移植の領域で臨床、研究両面で指導をしていただきました。技術的なこともさることながら、人として、医師としての考え方や心構えを教えていただきました。

先生の思い出に残る言葉を紹介いたします。「いつまで、ごちゃごちゃ議論している、腎臓に血が流れているか調べるのが先だろう！」と。これは移植後間もない患者さんの尿量が急に減った際に、我々が拒絶反応かどうかあれこれ議論していた際の言葉です。重大事には素早く的確な判断と行動をすることが大切であると学びまし

た。「いいね。二度と同じことは言わないからね！」と、同じ過ちを
やってしまった時に言われました。他の病院の先生からは紳士と
よく言われていた進藤先生から投げられた言葉です。まだまだあり
ますが・・・。

後輩にもことあるごとに伝えていきます。

これからも引き続きご指導お願いいたします。